

市史講座第1回ミニレポート

7月2日(土) 第1回「絵図に見る水の都・松江」(講師:京都府立大学文学部准教授 上杉和央先生)が開かれました。



上杉先生は、日本で作成された古代から近世までの多様な地図や、松江や出雲国を描いた近世の地図をスライドで示しながら、地図が描かれた目的や機能、さらには地図に表された世界観や人々の心性を解説されました。

それから江戸時代の大坂・松江間航路を描いた「登米寄港図」という古地図の紹介があり、描かれた景観から推定できる作成年代や大坂・松江間が直線を描く地形表現などのお話を通して、地図を読み解くおもしろさを教えてくださいました。

